

IGF2023に向けた国内IGF活動活発化チーム第31回会合 発言録

2023年2月27日

【加藤】 それでは、そろそろ時間になりましたので、第31回の活発化チーム会合をスタートしたいと思います。よろしくお願いします。

山崎さん、アジェンダをスクロールしていただけますでしょうか。本日のアジェンダということで、事前にお回しいただいたもので、もう目的確認というのはカバーしていただいていると思います。それから、前回の会合の振り返りというのも既に回していただいたのでカバーされていると思います。

それで、いつものとおり、まずできれば2023年の準備状況等について、飯田様、御出席でしょうか。

【山崎】 まだいらっしゃっていないです。

【加藤】 まだいらしてないですか。今日は参加いただけるというふうには伺っておりますので、じゃあ、おいで次第、アップデートいただくということで、河内さんのお名前をお見受けしますので、次のMAGからの御報告ということで、河内さん、お願いしてよろしいでしょうか。

【河内】 あまり進捗がないんですけども、一応明日の夜中にMAGのリモート会議があります。あとは来週、ウィーンで対面会合が開催される予定です。その会議の予定しかまだ連絡が来ておらず、詳細はまだそれほどないです。来週の会議のアジェンダは出ていますけれども、今あまり御報告できることがなくて申し訳ないです。来週多分行くことになると思うので、また帰ってきて、次回御報告させていただきます。

【加藤】 今回のウィーンでのMAGの会議について、どういうことをやって、そこで何が決まるというイメージはあるんでしょうかね。

【河内】 テーマと、今映してもらっている……、これじゃないな。

【加藤】 先ほどの。

【河内】 ええ、さっき映していました……、そうですね、今、映していただいている。それで、8日が1日目になっていると思うんですけど、このアジェンダは。実はこれに先立って、前の日の7日の午後にリーダーシップパネルの方々とミーティングが予定されています。それってここに載っていないので、非公式なのか、ちょっと分からないんですけど、一応それもあるので、参加できる人はしてほしいというふうに言われているので、7日の午前中に着くように今考えています。

【加藤】 ありがとうございます。なかなか豊富なアジェンダで、そうすると、まずリーダーシップパネルとの意見交換があって、それは今回の準備というよりは、もう少し広いお話ですね、リーダーシップパネルということだとすると。

【河内】 そうだと思います。

【加藤】 IGFの考えとか、今後どうするというようなこともいろいろ意見交換するという感じですね。

【河内】 はい。

【加藤】 それで、オープンコンサルテーションがまずあって、そこでいろいろパブリックの意見も聞いて、その後、MAGで2日間にわたって議論して、それで今年の2023年のテーマとか方向性を議論し

て、その結果、3月10日、それが終わった後、今年の大きなテーマの選び出しというか、そういうことが決まってくるという、そんなイメージでよろしいのでしょうか。

【河内】 はい、いいと思います。

【加藤】 ありがとうございます。河内さんへの御質問とか、河内さんがウィーンに行かれるのに言づけをされることとか、何かございますか。いかがでしょうか、皆さん。

【山崎】 山崎ですけど、河内さんに質問ですけど、7日の件は多分、公開はされないですよ。MAGとリーダーシップパネルの人だけですよ、参加者は。

【河内】 そうだと思います、すみません。そういう意味でここに載っていないんですかね。

【山崎】 だという気がしますが、差し支えない範囲で、終わってから御報告いただければなと思いました。

【河内】 そうですね。なぜウィーンでやるかという、もともとリーダーシップパネルの会合がウィーンであることになっていたの、それにくっつけたはずなんです。なので、なぜリーダーシップパネルがもともとこのタイミングでウィーンであることになっていたのか、そこはちょっと私、分からないんですけど、せっかくなので、そこで会合できるようにということで、くっつけてやるということになったという経緯があります。

【加藤】 リーダーシップパネルには日本政府からも御参加なんですよ。

【河内】 今回参加されるか分からないんですけど、メンバーリストには入っていました。

【加藤】 もともと入っていますよね。

【河内】 はい。

【加藤】 リーダーシップパネルの議論というのは、あまり公開されないんですか。何かまとめが出るのでしょうかね、今後。私もこの性質がまだよく分からないんですけども、どうなんですかね。

【河内】 前回のエチオピアでもあったはずなんです。私が現地に行かなかったのと、クローズドだったので、どのみち参加できなかったんですけど。その結果は出ていないと思います。

【加藤】 出ていないですよ。

【河内】 ええ。なので、あんまり出さないんですかね、なぜか分からないんですけど。

【加藤】 役割がいま一つ、そういう意味では、あんまりIGF的じゃないというか。

【河内】 そうですね。

【加藤】 分かりました。あと御質問はいかがですか、皆さん。

それと、もし日本政府からお出になるとしたら、日本政府からの情報も可能な範囲でいただくというイメージでよろしいですよ。

【河内】 それ、私ですか。すみません。

【加藤】 河内さんというか、今、総務省の方とか、もしどなたか参加されていて、御存じであればですけども、まだあまり参加されて.....、1個、浜田さんとか、お名前は若干あれですけど、もし何

か御存じの方がいればあれですけれども。これ、メンバーですね、ササキ様。

それでは、特に御質問は。後で必要に応じて、河内さんに御質問なり意見交換していただければということで、それではアジェンダに戻って、まだ参加ではないでしょうか。

では、飯田様は後で、お待ちするとして、次、アジェンダに沿って、IGFタスクフォースからの報告ということで、今日、前村さんがどうしても御出張で、時間的にも参加できないということで、IGFタスクに参加していた加藤または立石と書いてありますが、立石さんは今日御参加ですか。ちょっとお名前が見当たらないかもしれないですが、御参加じゃないですね。

【山崎】 まだ御参加なさっていないみたいです。

【加藤】 そうですね。じゃあ私から、山崎さんに書いていただいたものに沿って御説明しますが、できればぜひ補足いただきたいと思います。私より、山崎さん、事務局として中をよく把握されていると思いますので、お願いします。

まず、今回のIGFタスクフォースは2月7日に開催されまして、実はちょっと、スケジュールから言いますと、2月7日の後、次回は、今決まっているのが3月28日ということで、大分次回まで空いてしまって、その間、事務局が必要なフォローをするというような状況で、回数としては、次回まで回数が少なくて空いてしまうという、そんなイメージです。

それで、2月7日に行ったことというのは、今年の23年のCall for Thematic Inputというんですか、全体10ぐらいある大きなテーマの中でどこを特に強調するといいいのかということで、その中の優先順位をつけてくれと、こういうIGFの事務局からの要請に対して、コメントをIGFタスクフォースとして出したとということで、これは5つの団体の方がいろいろ議論されて、ここにありますとおり、Universal Access and Meaningful Connectivityとか、Environmental Sustainability and Climate Change、気候変動というのは結構、主な項目でしたけれども、その辺が特にということで、ちょっと下にスクロールしていただけますか。

その中でもImprove digital cooperationが最も重要なポイントですということで、IGFでの議論内容の分析を提案すると。これは、先ほどの2つが特にということで申し上げたんですが、それ以外にタスクフォースの中で、過去いろんなIGFの議論があったんだけど、それらがどこにどれぐらい重きを置いて分析していたかというようなことの数量分析をするといいいんじゃないかというようなことも提案するというものがありました。それで、一旦そういうものを出して、今それをベースに、恐らく先ほどの河内さんの御報告にありましたMAGでも大きなテーマを打って、重きを置くことを議論するんだと思います。例年大体4つぐらいですかね、それらをちりばめながらメインセッションのテーマを決めていくというインプットが2月末までに皆さんから出されたと、こういうことでございます。

タスクフォースからもそういうものをインプットしたということで、それと今後、IGFは毎年1つ、非常にシンボリックな言葉で、今年のIGFというのはこんなイメージなんだよという、いわゆるメインテーマと言っているものなんですけど、その助言もできればしたいということで、この2月7日の会合でいろんな意見を。これは皆さんが意見を言い合うだけで終わったんですけど、ここに羅列していただいたようなことが主に、意見が出ました。

5つの団体ということで、みんな個人的意見ではありますけれども、思いついたことを順に何か一つ二つ言えと言われまして、私も突然振られて、日本でやるということもあって、この2つ目の文化的多

様性とか、それから、せっかくアジアでやるということもあって、インフラの話とか、今までやったプライバシーやセキュリティーやそういう話に加えて、もう少し、特に京都でやるということもあって、Internet for better lifeとかInternet for happinessとか、この辺私が申し上げたんですけど、いろいろもうちょっとスピリチュアルなことも含めて、この際、インターネットと平和というようなのも出たんですけども、平和って直接言うよりも、本当に、なぜ平和が必要かというようなことまで議論できるような、そんなセッションもやっていいんじゃないかというようなことを申し上げたりしました。

このタスクフォースに参加されている方の中でも、京都の有名なお坊さん呼んで、彼らの考えをしゃべってもらったらどうかとか、そんなような意見が出ていまして、京都という土地柄、久しぶりにアジアで行われるIGFであるということを考えて、少しそういうニュアンスを出したらどうか。メインテーマって、アイデアの羅列とここに今書いてありますけど、そういうので、別にそれで何が、全部が決まるとかそういうものではないんですが、ちょっと特色を持たせたほうがいいかなというような意見があって、名前はあれですけども、Ethical use of Internetというのは村井先生が、そういえばIETFの第100回会議かなんかで、やっぱりすごい日本とかはエシカルなんだよねなんていうことを言われて、そのエシカルというのは非常に重要なキーポイントじゃないかななんていうこともおっしゃっていらして、そんなような意見交換をいたしました。このメインテーマの助言について意見を出して、これで何かが決まったというんじゃないくて、こんなようなことが考えられるねという話が出ました。

山崎さん、そんな感じでよろしいですかね。何かの僕のニュアンスが違ったら補足していただければと思います。

【山崎】 特にありません。

【加藤】 大丈夫ですか。

【山崎】 はい、大丈夫だと思います。

【加藤】 それで次、3つ目、WGと書いていただいているものなんですけど、これも前回からありまして、タスクフォースは今、運営委員会ということで、5つの団体の代表が集まって議論しているだけで、先ほどのテーマについても、その中のボランティアがいろいろ意見を出してまとめたというものなんですけれども、今後もう少し、ワーキンググループをつくって、いろいろ内容を提案して行って、それと同時に、その内容を4月以降、セッションの提案とか、そういうところにもつなげていきたいので、WGをつくったほうがいいよねという話になって、WGについては、コンテンツといいますか、内容に関して、例えばここにあるようなインクルージョンとかインフラストラクチャーとかプラットフォーム、SDGsとか、そういうようなものを議論したらどうかとか、それから、運営方法といいますか、パーティシペーション、マルチステークホルダーをどうするかとか、アウトリーチするのに働きかけ作業していくのはどうかとか、エデュケーションとか、ユースなんかもその先にあるのかもしれませんが、そういうようなグループをWGとして考えていったほうがいいと。

ただ、これは、項目としてありますけれども、これら全部、7つつくるとかということではなくて、そこでは何も決まらず、WGはつくったほうがいいと、そのつくり方や何かは継続審議ということだと思います。

山崎さん、事務局でもう少し取りまとめて、今度の3月に出す感じなんですかね、ここは。

【山崎】 その場で、このWGには誰々さんと、人を割り振っていたと思いますけど。ですから、あんまりこれから大きくは変わらないんじゃないかと思います。

【加藤】 変わらないですか。割り振ったというか、これが関係するよねという話をした、あれで確定なんですかね。

【山崎】 それは一旦、多分皆さんに確認が必要だと思いますけど。

【加藤】 そうですよ、まだ。

【山崎】 ただ、まだ全然何も決まっていないというわけでもないというふうな。

【加藤】 そういことですね。ただ、僕の理解は、あのWGがそれぞれ別々にあって、やるという人は1人だったから、それぞれ。あの人たちがまたその先誰に声をかけるかということとか、それぞれを別々にするのかということまで明確に決まらなかったと思ったんですが、それはどうですか。

【山崎】 そうですね、取りあえずこれらの項目について.....。

【加藤】 何かカバーしたいと。

【山崎】 1人アサインして、その後どうするかは追ってというところで終わっていたと思います。

【加藤】 そうですよ。分かりました。そういう意味で、どれぐらいフォーマルにこれをオーソライズするかは次回3月28日に決めて、動き出すという、そんな感じかなと思います。

【山崎】 私の認識ですと、もうちょっと早く、次回を待たずに、メールベースなりで。

【加藤】 やりそうですか。

【山崎】 動けることは動かなきゃねというふうになっていたんですが、すみません、事務局が、手が追いついていないという状況です。

【加藤】 さっき、そういえば前村さんから、こんな状況で、進捗状況というのはたしかそんな感じだったですね。分かりました。

というようなのが前回の2月7日のタスクフォースでしたが、何か、御存じの方で追加事項、または今御参加の方で御質問等ございますでしょうか。特にないですか、御質問ある方。よろしいですか。

それでは、これはそういうことで、今、山崎さんからコメントいただいたWGについて、ひよっとすると、ここに書いてあるいろいろな項目、WGに関して、ボランティアで参加してくれというようなコンタクトが個別にあるかもしれないという感じでよろしいんですね、山崎さん。

【山崎】 はい、そうだと思います。

【加藤】 それは5つの団体のどこにどう所属しているかということが、その代表の代表とか、団体の代表とか、そういうことではないので、それについてあまり形に縛られずに声をかけると。逆にこういうWGに参加したいということがあれば、取りあえず前村さん、山崎さん、場合によっては私にも言っていただければ、つなげるかもしれないというふうに思います。ということで、よろしいでしょうか。

では、タスクフォースの話は取りあえずそういう御報告ということで、終わらせていただきます。

次に、先日行われましたエチオピアのIGFの報告会、この振り返りです。ここに書いていただいたと

おり、現地参加ということで会場参加された方が9人、遠隔が35人の参加だということでございます。アンケートの集計結果を出していただいて、できれば山崎さんから御報告いただけますか。

【山崎】 はい。では、簡単に報告します。最初の所属ステークホルダーですけれども、結構うまい具合にばらけたというか、一番多いのが学術セクターの方と民間企業が一番多いというふうになりました。ただ、四十何名かのうち14名からしか頂いていないので、ちょっと母数は少ないですけれども、御参考ということで、この報告会をどうやって知ったかということは、活発化チームのメーリングリストが一番多いということと、あとは人づてに聞いたということが2番目になります。初参加の方は4分の1ぐらいです。参加理由で一番多いのは、インターネットガバナンスに関心を持っているためということで、これは非常にすばらしいと思いました。興味があるセッションと、出席したセッションはこんな感じになっているということです。プログラム全体の印象でネガティブなものはなかったということになります。

開催形態で、開始時刻は、悪いというのがつかまりましたので、早過ぎることなのか、遅過ぎることなのか、それとも平日にやらずに、週末やったほうが学生とかが参加しやすいのではないかという意見も以前の活発化チーム会合でありましたが、その辺がこのように出ているのかなと私は想像しました。

次、自由記述ですけれども、かなり具体的なコメントをいただいて、非常にありがたいと思っています。最後の2つはロジスティクスですかね、どのように参加してもらうように、もしくはどのようにこの報告会自体を改善できるかというコメントだと思います。前2つは内容についてということになります。

以上がアンケートの集計結果ですけれども、加藤さん、もしくは参加の皆様から、御質問とかコメントとかあればお願いしたいと思います。

【加藤】 加藤ですけれども、先ほどの、(開催)時間に少し問題があったというのは3人ぐらいコメントされたと思うんですが、早かったということですかね、時間が。

【山崎】 ちょっと、そのの.....

【加藤】 分からないですね。

【山崎】 書いてもらう設問を追加しておかないと、これだと確かに分からないという意味で、聞き方があまりよくなかったということになります。

【加藤】 だけど例年、平日の午後で、あまり長くしないで3時間というのでやってきているので、全ての方に完璧にというのはなかなか難しいのかなという感じですかね。

【山崎】 どうしても登壇者の都合を優先せざるを得ないというのがあると思ひまして。

【加藤】 それもありますね。

【山崎】 ただそうしていると、ずっと平日昼間となってしまつて。

【加藤】 学生さんとか、参加したい。

【山崎】 ですから、特に市民社会の方ですね、本業が昼間で参加しづらいという方は、どうしても参加しにくくなるというところは考えなければいけないかなという気もいたします。ただ、その埋め

合わせとして、全セッションの録画及び資料、資料が出ていないセッションもありますけど、録画は全部提供していますので、参加できなかった方も録画は見れるというふうにはなっています。

【加藤】 ありがとうございます。

先ほどからお見受けしていて、浜田さんとか上村先生とかいらしたと思いますが、ほかにもいらした方ですけど、簡単にでも御感想等いただければと思いますが、いかがでしょうか。

【上村】 浜田さん、どうぞ先に。

【浜田】 すみません。実は私、別の会議と重なってしまっていて、その裏で拝見していたので、あまり十分には参加できなかったんですけども、会議の内容はかなり聞くことができまして、実り豊かな話はできていたんじゃないかなというふうに思いました。

【加藤】 ありがとうございます。

上村さん、今回も本当に大変な、8人のスピーカーをうまくまとめていただいたんですが、いかがだったですか。

【上村】 エチオピアの会議がどんな感じだったかというのを知るには、とてもよかったんじゃないかと思います。何を目的にしたかということに尽きるんだと思いますけど、それと照らしてどうだったのかというのは、私はあんまり承知していないので、個人的に面白かったということだけお伝えしておきます。

あと時間帯については、やっぱり昼間の仕事の一部として出られない人に合わせるしかないと思うんですね。昼間の仕事で出られる人は、自分が努力すれば週末でも出られるわけなのですが、昼間の仕事として出られない人は、どうやっても昼間の会議には出られないので、そこはあんまりうやむやにして先延ばしするのではなくて、どちらか腹を決めないといけないんじゃないですかね。多分それがいろんな、違う立場で参加している人が混在する中で、昼間の仕事として出られない人たちに、昼間の仕事として出られる人ができる最大の譲歩というか、サービスというのか、譲歩ではないかという気が私はします。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。私のメモを見ていると、上村先生にまとめていただいたところで、日本独自のテーマとして、例えばメタバースなんかは2022年でも結構面白かったんじゃないかなんていうコメントがあったと思いますが、セッションのまとめの中で、今年23年、日本で特色を持ってやっていく話とか、若干どうやって若い人たちや学生にも声をかけていくかというのがあったと思いますが、その辺何かフィードバック、先生からしていただくようなことはありますか。

【上村】 事前にそういう話をしたほうがいいという話は多分この場でした気がするんですけど、あんまりそういう方向の話には行かなかったような印象が。

【加藤】 ええ、深くはなかったですね。

【上村】 ただ、メタバースとか、そういうこと、要は日本がオーナーシップとリーダーシップを持って議論できることをしたらいいんじゃないかみたいなことは一応私がメンションしたような気がしますが、その程度だったですかね。

あと、若手というか、ユースの方に参加してもらうことについても、ちょっと私の仕切りがよくなかったのか、反対はなかったんだと思いますけど、あんまり実のある方向が見えた感じもしなかったもので、すみません、そこは私の仕切りが悪かったような気がします。

【加藤】 いえいえ。例えば小林さんのように、社会人だけどもまだ3年目といますか、早い方がいろいろ参加されて、経験を語っていただくようなことができるといいなというコメントがたしかあったような気がしましたし、あとちょっと面白いなと思ったのは、日本で開催するというのもあって、大学の学生さんでもホスピタリティー学部なんていうところの人には非常にこれ、興味がある機会じゃないかな、なんていうコメントも、たしかどなたかからあったような気が。

【上村】 そうですね、はい。私が言ったと思いますけど、やっぱりテックの人はあまりそういうことに関心ないでしょうから、むしろ国際関係とか、この間言ったように観光学とかホスピタリティー系の勉強をしている学生のほうが、こういう会場のボランティアとしての興味を持つんじゃないかと思ったということはお話ししました。

【加藤】 そうですね。

【上村】 あと、先ほどの時間帯の件と関係するんですけど、八田さんだけではなかったかな、行った人の話を割と聞いたので、やっぱり行くことが大事だよなというか、現場に、少なくとも同時帯に参加し合うことが大事だよなというようなメッセージがあったような気がするんですね。なので、ビデオが見られるようにしていますからいいでしょという、もちろんそれはあったほうがいいんですけど、ビデオがあるということと、同時帯に、同期的にインタラクションするということは代替する関係ではないと思うので、それはそれでしっかりしないといけないのかなという気はしました。

【加藤】 ありがとうございます。どなたかほか、御感想とかありますか。ここにいらっしゃる方はかなりの方がリモートでも参加されたと思いますが、いかがでしょうか。改善点等をぜひこの機会に、あればお願いしたいんですが、いかがでしょうか。

パネリストで河内さんも当然参加されていたんですが、いかがだったですか。

ミュートになっています。

【河内】 すみません。私は去年と今年と、参加するのが2回目だったんですけど、やっぱりもうちょっと広くリーチできるといいなと。お話しいただいた方々のお話、とても面白かったので、何かもったいないなと、もっといろんな人に聞いてもらえる方法を考えるといいかなと思いました。

【加藤】 そうですよ、ちょっと参加者が少なかったですね。去年のIGF報告会が延べ300人以上だったんですが、今回そんなに行かなかったのもう少し広く。単なる報告会という、関係者だけが確認するというふうにとられたのかもしれないので、ちょっとこれからは工夫する必要があるかもしれないですね。中身は結構、面白かったと思います。

ほかいかがでしょうか、コメントはございますか。あまり勝手に当てるのもあれなので、もし御意見があればと思いますが。

あと、もうこれも皆さんよく御存じだと思いますが、今回、前村さんからIGFの全体の概要をもう一回、パワーポイントを使いながら説明していただいたので、そのビデオも含めて、今後IGFの説明というところで使っていただける材料ができたかなというふうに思っています。その部分だけでも今後、

いろいろな場で活用していただければいいのではないかなと思います。山崎さん、それは今後可能ですよね。

【山崎】 すみません、もう一度お願いします。

【加藤】 IGFの全体概要を前村さんから説明していただきまして、最初のほうのセッションで。

【山崎】 「IGFとは」というやつ。

【加藤】 はい、「IGFとは」です。あの材料はビデオとしてもあれですし、説明の資料としても今後もっと活用していただけるということで。

【山崎】 はい、あのビデオも公開しました。

【加藤】 そうですよ。だから何か説明するときに、それを持っていろいろ御説明いただければということで、スタートポイントができた。この会でも何かそういうのがないとというのが何回か議論があったんですが、それがスタートポイントができたということで、一応リマインドです。

【山崎】 そうですね。ビデオの視聴数を見ますと、その「IGFとは」というものが一番、視聴された数が多かったです。

【加藤】 分かりました。

今、石田さんから。そうですね、PRを積極的にして、WGの題目が増えたほうがよいということとか、もっとIGFの参加を広めるためにいろんなことをやっていこうということで、報告会という名前ですけれども、IGFのことを知っていただくということも一つ目標として今回やったので、今後2023年京都に向けてPR活動をしましょうというのは、今日の会議の、この次のアジェンダにもありますけれども、そういうことを考えていくという趣旨だと思います。お答えになっていますでしょうか、石田さんのチャットにお答えしたつもりですけれども。

【山崎】 石田さんは定例会と書いていらっしゃるんで、この活発化チーム会合にもっと若手が参加したほうがよいのではないかと認識ですかと聞かれているんだと思うんですが、それは、そうですね。

【加藤】 もちろんそうですね。

【山崎】 過去、ユースの話も出ましたし。

【加藤】 この定例会自身ですか。そうですね、もうこの定例会もどんどん参加していただいて。ただ、事務的な話だけにとすることであれば、興味が若干少ないかもしれません、それも含めていろいろ知っていただくというのはありがたいことだと思います。

ほかの方がいかがでしょうか、報告会について。この程度でよろしゅうございますか。じゃあ、この項目はこれで、取りあえず終わりにしたいと思います。

アジェンダに戻らせていただいて、ちょうどIGF2023の広報。もう少し広くIGFを知っていただくために、いろいろなところにアプローチをしようということで、ユースの話とかいろいろあったと思いますが、先ほどのIGFの、IGFとは何かというようなものをいろいろお見せするというところもあるかと思っています。これについて、山崎さん、何か事務局としてこういうことが今to doになっているとかというのはあるんですけど。タスクフォースのほうでは、タスクフォースのメンバーをさらに募ってい

くというのが今進行中だと思うんですけども。

【山崎】 すみません、いつまでに誰が何をするとかいった具体的な案ができていないわけではなく、タスクフォースと似ていて、何を誰にどう働きかけるかというのは案をつくっていきなさいいけないということだと認識しています。ただ、ちょっと事務局だけでできる話ではないので、皆さんにもぜひ御協力いただきたいなところですけど、そのためには何かたたき台がないと、何をどうすればいいかわからないというふうには思われるでしょうから、実はその辺は鶏卵問題というか、そういうことなのかもしれませんけれども。

【加藤】 タスクフォースとも連携するということがあるのかなと思いますね、これ。

【山崎】 そうですね、ばらばらにやるというよりも、連携したほうがいい性質のものではないかという気もいたします。

【加藤】 もう一つは、ユースのリクルートという意味でも、活発化チームとしていろいろ知っていただくというのはあるのかなと思いますね。その程度のこと、これ、議題として認識しているんですけど、それでよろしいですか、山崎さん。取りあえずは。

【山崎】 そうですね、これ以上具体的なものがないと、皆さんも意見しづらいのではないかと。

【加藤】 そうですね。

【山崎】 皆さんからもしコメントがあればお伺いしたいところでありましてけれども。

【加藤】 活発化チームとして何か、こういうグループにコンタクトしろとか、そのときに先ほどのIGFとは何かというのを御説明するとか、それから4月以降、何かテーマを求められるというプロセスに入ったときにもう一度御説明をするとか、そういうことは引き続きやっていくのかなというふうに思います。

何か皆さん、御提案とか御質問とかございますか、これについて。よろしいですか。特に手が挙がらないので、それでは引き続き、次の件に行かせていただきます。

NRIとしての連絡先ということで、これは前回の会議で、NRIのリエゾンと申しますか、御承知のとおり、IGFのNRI、ナショナル・アンド・リージョナル・インターネットのグループがあって、そこで、今年は特に京都でIGFがあるということで、日本のNRIであるこの活発化チームと申しますか、日本でいろいろIGF活動しているチームともう少しコミュニケーションしたいというような要望があるということが聞こえてきましたので、前回の会議で、各国のNRIグループとコミュニケーションするということで、誰かボランティアをしていただくのではないかと申上げて、3人手が挙がったということで、その3人でスタートさせていただく格好になりました。

正確に言いますと、2月10日からラストコールがあって、特にコメントがなかったということで、取りあえずこの3人がNRIのコミュニケーションのために当面参加、少なくとも1か月ぐらい、NRIの各国のグループといろいろ話を、やり取りをするという場と、それからメール上でしょっちゅういろんな意見を出し合うというのがありまして、それをやらせていただくということになりました。そこまでよろしいでしょうか、皆さん。何か御質問とか。

上村さんからコメントをいただいています。

【上村】 ちょっと補足をさせていただきます。

【加藤】 お願いいたします。

【上村】 コメントに書いたとおりですけど、日本のNRIはJapan IGFコーディネーショングループというのをつくって、JPNICの、当時熱心にこの活動をなさっていた奥谷さんをはじめ、総務省の方にも入っていただいて、Japan IGFコーディネーショングループというのを仮建屋として、仮社屋としてつくったわけです。それで、そのコーディネーショングループはなかなかうまく機能していなかったのので、現在、事実上defunctな状況になっているわけですけど、そうはいつでも、全く無視して、乗っ取るような形でするよりは、コーディネーショングループを清算するなり解散するなり、あるいはコーディネーショングループから活発化チームにNRIを委ねるとするなり、反対に活発化チームは実はコーディネーショングループの下部組織であったということにするなり、何かないと、何かしないと、このままだと、何ていうんですかね、歴史を書いたときに説明がつかないですよ。あんまりこれ以上言うのは私も本意じゃないので、こういうのを言う機会は最後じゃないかと思いますが、そこはどうなるでしょうかというコメントでした。

それから、引き継ぐことになった場合に、手を挙げたお三方がコンタクトをなさることについては、全く異論はありません。

【加藤】 ありがとうございます。できれば、ぜひ上村先生から、どういうふうにするのが一番自然かというコメントもいただければと思うんですが。

【上村】 ごめんなさい、私、多分この活発化チームの最初の会合に出たときに申し上げたと思うんですけど、そこについては、私はもうノーアイデアなので、やっぱり活発化チームという形でこの活動を進めようというアイデアを着想された方が責任を持って対処するほうがいいんじゃないかと思うんです。なので、すみません、私は今もノーアイデアです。

【加藤】 分かりました。それでは、山崎さん、このページが出ていますので、そのアバウトのところをもう1回クリックして、まず活発化チームのほうはいいんですけど、その上で英語のところ、それのところだと思うんですね、今。

ここにJapan IGFのコーディネーショングループということで名前が出てくる人がいて、そういう意味では、この人たちでもう一回。私は、これ、ずっとそのときからやっているの、いいのかなと思うんですが、ここにいらっしゃる方々で、活発化チームから今3人手を挙げた人を承認してもらえばいいんですかね。その辺何か。

【上村】 今のお話はあれですか、活発化チームにその3人が、既に入っている人もいるわけですけど、入るといえることですか。そのコーディネーショングループとしてちゃんとしたコンタクトできる、コンタクトとして務められる方を、入っていただくということですか。

【加藤】 それは一つのアイデアかなと思うんですけども、もう一つは、もうこのIGFジャパンって、名簿もアップデートされていないし、過去かなりの間動いていないので、これは正式に終了するという。

【上村】 それもありかもしれませんが、一方で、活発化チームは時限的な取組なので、そっちが引き取っちゃうと。

【加藤】 そうなんですよね。それでどこまでそれが全部やれるのかという問題もあるので、やり方としては、その2つです。

今、西潟課長から、そういう継続や何かについての決まりがあるのかというコメントですけど、それはコーディネーショングループの会議法として何かあるのかというんですけど、それはここに書いただけで、ないんじゃないですかね、コーディネーショングループは。

【上村】 チャーターはかなり丁寧に作ったので、チャーターなるものはあります。ただ、私の記憶では、コーディネーショングループのメンバーをクビにする方法については相談した記憶があるんですけど、コーディネーショングループ自体がなくなったりという想定はしていないような気がします。後でチャーター探しますけど、西潟課長の御質問に対しては、今のがショートアンサーだと思います。

【加藤】 どうしますかね。ここがなくてということになると、一番簡単なのは、ここに、私は入っているんであれですけど、山崎さん。ただ山崎さんは実質的にこれ、事務局としてJPNICさんがやられていて、入っていらしたと思うんですが、あと河内さん、MAGでいろいろやられているので、今回このコーディネーショングループにも入っていただくということだと思うんですが、そうですね、西潟さんから言われたとおり、チャーターがあるなら、それを見て、この中で、今言った2つの方法、Japan IGFの中に入って3人をオーソライズするのか、Japan IGFはもう終了なので、あとは活発化チームが当面やってもらうというふうにするのか、それをJapan IGFのグループで決めるんですかね。

【上村】 今さら誰も反対はしないと思うので、こういうふうに整理しませんかという呼びかけがあれば十分ではないかと。

【加藤】 分かりました。じゃあ、それはそれで少し、キーになっている方、上村先生もそうですし、実際大半の方が今も活発化チーム含めてやっていらっしゃる方なので、もう一回、声をかけますかね。

サブの話として、この場、活発化チームとしての議論も必要ですということで、それは西潟さん、もし発言いただければ、ちょっと御説明いただけますか、例えばどういうふうにすればいいかという。

【西潟】 私も、コーディネーショングループには直接関わっていないのであれなんですけど、全世界のIGFのコミュニティー、あるいはIGFというイベントも含めてですし、あるいはジュネーブの事務局との関係というのも含めて言えば、コーディネーショングループを廃止して—特に廃止の場合ですね、廃止して、この活発化チームが今、実動として、あるいは実態として一番、特に2023ということなのかもしれませんが、端的に言えばIGFのことを考えていただいている人たちなので、その人たちの議論の結果として廃止し、改めますということであれば、それは一つのやり方だと思いますし、他方で、上村先生からもいただいたように、チャーターがあるのであれば、それに従うというのも前提だと思うんですね。

企業じゃないとか行政機関じゃないという意味では、どこまでチャーターに縛られるのかという話はあるんですけども、他方で、一応これ、私もその理解が多分、正しくなければ、どなたか御指摘いただければと思いますけども、ジュネーブとの関係では公式なんですよね。あるいは世界全体と言ったほうがいいのかもしいんですけど、ということであれば、やっぱり手続としては、例えば解散にしてもメンバーの交代にしても、コーディネーショングループというものが廃止されていないのであれば、まずはそのメンバーが、先ほど上村さんがおっしゃった状況であれば、なおのことスムーズだと思いますけれども、その状況いかに関わらず、本来であればその人たちから端的に言えば同意を取るプロセスが必要なのかなと、あくまで一般的な組織論の話として。

【加藤】 そうですね。ありがとうございます。

【西潟】 それがまず前提にないと、次の議論は行っていいのかが分からないというのが私の率直な今の理解です。

【加藤】 ありがとうございます。そうですね、じゃあ上村先生、この会議が終わった後、今日というわけではないんですが、引き続き、今のチャーターを分析して、どっちの方法でやるのがいいのか。チャーターに基づいてコーディネーショングループを終了するのがいいのか、形の上で、コーディネーショングループの中に、今の3人のリエゾンを取り込むというか、指定して、コーディネーショングループが引き続き継続するというのがいいのか。その場合、コーディネーショングループの活動もちょっとアップデートしたほうがいいと思うんですね、メンバーや何かも含めて。そこをちょっと議論させていただいて、それを活発チームのメーリングリストに提案するというのでどうでしょうか、やり方として。

【上村】 はい、CGを尊重するというのであれば、よろしいんじゃないかと。

【加藤】 まずそれは、今までそういう形になっているものは無視するわけにいかないという意味で、もちろん尊重すると思います。

【上村】 了解です。

【加藤】 そういうことでお願いします。

それで、活発化チームの皆さんへの御報告ですが、この加藤、河内、山崎の3人で先日、2月20日にNRIリエゾンの全世界のグループの会議があって、あくまでオブザーバーですということで、この3人で参加させていただきました。最初、全員のロールコールがあって、トータルで、河内さん、山崎さんもあれですが、たしか45人ぐらい参加されてましたよね。各人のロールコールがあって、日本からも参加しているということで大変歓迎させていただいて、ぜひ、今年京都であるということで、引き続き日本のIGFのグループからはいろんな参加を期待するというコメントが強かったと思います。

それでその中で、これも活発化チームへの御報告なんですけれども、NRIはコラボレーションのセッションというのを持っていて、IGFの会議でコラボレーションセッションと。これは、もしできれば、山崎さん、2022年IGFのコラボレーションセッションというのを共有していただくと分かりいいと思うんですが、今、ぱっと出ますか。NRIコラボレーションセッションというのが。右のNRIじゃないですかね。ナショナル・アンド・リージョナルというのがありますよね、一番頭に。今のボックスで言うと左から2番目、一番上のボックス、これです。ありがとうございます。

これが2022年、エチオピアであったときのNRIのコラボレーティブセッションの説明ですが、世界中の各国・各地域のNRIの人たちが集まって、IGFの中でセッションをやると。2月20日に議論したのは、このコラボレーティブセッションを京都の会議のときにやるのか、それ以外の時期に、さらにNRIとして各国で人々が集まって、オンラインベースですけれども、セッションをやるのかと。やるとして、どれぐらいの時間、どれぐらいの数をやるのかということが議論されまして、今取りあえずのコンセンサスが、やはり今年も京都でこれをやろうと。京都でやる場合に、Day 0から始まって、毎日1回ずつやろうと、つまり4回か5回、NRIコラボレーティブセッションというのを各回90分間やりますと。

それについてエチオピアでは、ここにありますような7つの項目の議論がなされたということで、ほぼIGFの大きなテーマや何かと似たようなことを、NRIということで各国の事情を踏まえながら意見交換をする、そういうセッションを持つ時間が取れるということなんですね。逆に言うと、日本がここ

でNRIとして、例えば活発化チームの皆さんが参加すれば、かなり、特に日本でやっているということもあって、いろいろとこちらからのインプットの機会も増えるということで、このことが今回一番大きな項目として議論されました。大きな枠組みとしては、京都でこういう時間が今年も取られることが決まったということだと思います。

ありがとうございます。山崎さん、今出していただいているのは、2月20日の会議の後、NRIのコーディネーターである国連のほうから、アニュアルレポートですね、会議のまとめということで出されたものです。毎日、京都で今のコラボレーティブセッションというのやりますと、1日1回はやりましょうと。それは、下のほうにありますけれど、90分間ずつ、そういう特別枠をNRIが参加する場で持てると、こういうことが決まったということです。

河内さん、山崎さん、ほかに何か付け加えることは。

【山崎】 特に追加することは、私からはないです。

【加藤】 そういう意味で非常にタイミングよく、先ほどの上村先生のプロセスの問題は、確かに中途半端ではあるんですけども、日本から何らかの形で参加するにはよいタイミングだったかなというふうに思っていますということです。

【西潟】 加藤さん、すみません、1点、質問です。先ほどNRIの、すごくいい話だと思ってお聞きしたんですけど、毎日とおっしゃいましたか。

【加藤】 はい。

【西潟】 毎日90分。

【加藤】 はい。

【西潟】 すごい量ですね、その分ワークの量もすごくなりますよね。

【加藤】 すごい量です。

【西潟】 これ、本気でやります？この活発化チームの生い立ちからして、やるんだったらと言いますか、やらなきゃいけないという部分はあるかもしれないんですけども……。

【加藤】 ええ、活発化チームがということなのか、日本としてどれぐらい、どう参加するのかはありますが、これは今年の、さっき山崎さん出していただいた2022のいろんなテーマでも、要するにNRIって結構、NRIのリエゾンも45人と言いましたけど、みんな各国、IGF中心にやっている人で、河内さんと同じようにMAGでやっていらっしゃる方もたくさん出ていらっしゃるんですけど、結構IGFを中心的にやっている人たちが参加しているんですよ。そういう意味で、これは結構大きなオポチュニティーだと思います。

【西潟】 大きいどころか、すごいですねと思ってお聞きしてまして、例えば、私個人のIGFとの関わり方がOECDからということがあったので、こっちのNRIのほうはほとんど私も知らなくて、すみません。土地勘がないんですけども、90分で、Day 0にかぶせるかどうかとしても、最低4日はありますよね。

【加藤】 はい、あります。そこのところ細かくはもう一回詰めるんですが、それぞれ何をやるかということは今後議論されていくことになるので、これ結構……。

【西潟】 それって我々（日本）のイニシアチブでいいんですよね。

【加藤】 まあ、そう。これ、IGF側はあんまりこだわらないので、イニシアチブというか、いろいろコメントできるんじゃないかと思います。

【西潟】 なので、とても端的に気づいたこととして申し上げると、この活発化チームの活動のアジェンダとして、少なくとも2023のイベントに向けてはですよ、このNRIの中で何をやっていくかと設定すべきではないか。そこから逆算していくと多分、直近のところでは（先ほど議論があった）コーディネーショングループの取扱いみたいな、組織としては、整理という言葉が適切かどうか分からないけども、そういうような話から始まり、90分掛ける4とか5とかというセッションを我々がちゃんと――我々というのは活発化チームであって、我々が主体的に運営できるのか。

あるいは、それに近い状態に行けるといえるのであれば、事務局との関係性は、私ここも不勉強なので申し訳ないんですけども、これをずっと10月までやるには今からでちょうどいいんじゃないですかと思いましたがというのが1点目。2点目は、先ほど会合に参加されたとき、45名ほどの方が全世界から参加なさったということなんですけども、地理的にどこが多いとか、そういうバックグラウンドとかプロフィール、ステークホルダーもどんなステークホルダーなのかというのを含めてですけど、時間の許す限り、そんな長くない範囲で御紹介いただくと、イメージを共有させていただくという意味でありがたいなと思ったんですけど、いかがでしょう。

【加藤】 私、ノート、全員を取っていたわけじゃないんですけど、2番目の質問からお答えすると、アメリカの人をはじめ、ヨーロッパの人、アフリカの人、アジアの人、中南米の人、皆さんいろんな国から出ていました。そういう意味で、NRIでふだんから活発に、メーリングリストをふだんから私も受け取っているの、見ると、いろいろな人が発言されて、IGFでよく出ていらっしゃる方がやっていますので、そういう意味では満遍なくという感じではあると思います。

それから、最初のほうの御質問で、この活発化チームがどこまでできるのかということを除くと、これは非常に重要な、活発化チームとしてのオポチュニティーというか、場だというふうには思っています。

【山崎】 上村さんから質問、手が挙がっていますけど。

【加藤】 ごめんなさい、見えなくて。失礼しました。上村先生、お願いします。

【上村】 ごめんなさい、ビデオをつけたつもりが、ついていませんで。

これ、私、ベルリンの会議の頃までは、ちゃんとNRIのバーチャルミーティング、テレカンの3分の2ぐらいは出ていたので、そのときの記憶で申し上げますと、メインセッションとコーディネーションセッションとか、それから従来だとコラボレーティブセッションという名前のセッションがあったんですよね。今は総称的にコラボレーティブセッションという名前がついているようなんですけど、会期中、何個かセッションが当時もありました。

それで、コーディネーションセッションというのはビジネスミーティングみたいな感じで、すごい、何か部外者が出て面白くないような、インターネットのガバナンスの研究者ぐらいしか興味を持たないような内容でした。メインセッションというのは、NRIのグループとして取り上げるべき課題を取り上げるセッションだったと思います。コラボレーティブセッションは、さらにその中でテーマ別に分かれるような感じのセッションとして、当時は開催していました。コーディネーションセッション

は私も何度か、加藤さんも同席いただいたことありましたが、毎回出るようにしていたと記憶しています。

それで、その中身については、コーディネーションセッションは今申し上げたような性格のもので、あんまり中身をつくるということとは必ずしもフィットしないんですけど、それ以外のセッションについてはNRIのコミュニティーの中から、この指止まれ方式で、あるいはテーマを持ち寄る方式で決まっていくということなので、ホスト国のNRIがオーナーシップというリーダーシップを持てるかということ、多分、みんな俺についてこいという感じでテーマを提起すれば、それは可能だと思うんですけど、ホスト国のNRIさん、よろしくお願ひしますという形で渡されるものでは、当時はなかったんです。ですから、最悪というか、最も軽量級で望むならば、ほかのNRIのグループの人たちの意見を尊重して、黙って聞いているという形もあり得るでしょうし、もう少し、せつかく京都で開催するのだからということで、コラボレーティブセッションなりメインセッションに人を送り込むぐらいの勢いで臨むということもあるかもしれません。

ただ、NRIの数に比べてセッションの数が圧倒的に少ないので、最初の頃は全NRIが壇上に乗るとかというのもあったんですけど、最近はそうでもないで、何というんでしょう、かなり、そういうものなんですという、そういう感じになっていると思います。

以上です。重量級で参るべきかどうかについては、私は何とも言えないです。

【加藤】 ありがとうございます。私も上村先生と同じ印象で、5つセッションがあって、90分の重いものがあつたとしても、日本が全部とか、かなりを主導権取るというのは、ちょっと日本の軍事力では難しいんじゃないかと思うんですけども、少なくとも1つぐらい日本的なニュアンスのもので、この指止まれというチャンスはあるのかなという気がしますね、今から準備すれば。それと、必ずNRIのセッションは、ここの活発化チームの方々が顔を出せば、IGFの通常のやり方であれば、たとえパネリストじゃなくても手を挙げて、1分間と言われながらも3分間しゃべることだってできますので、そういう形でのパーティシペーションは十分あり得るかなというふうには思います。

ここに出していただいたとおりですね。今、数から言うとNRI、すごく多いです。積極的に参加しているのが、前回45人ぐらいカウントしましたので、それぐらい、参加者というところを見ると45人、一瞬46人だったんですけど、それぐらいは積極的に参加している方がいるというイメージです。

ということで、御質問とかありますでしょうか。ぜひ重量級のために武器弾薬の支援を西潟課長からお願いしたいと、この活発化チームのためにも御支援をお願いしたいと思います。

【西潟】 武器弾薬は全然、いつも喜んでご提供いたしますが、ここでみんなで決めながらというのはあるんですけど、多分、今おっしゃっている内容からすると、10番がまず、私はこれがまさに取り上げられた回は、すみません、ちょっと別件で欠席させていただいたのでごめんなさい。議事録は拝読いたしましたけど、これともリンクすると思うんですよね。

【加藤】 そうですね。

【西潟】 ちょっと時期が時期なので、それこそ去年の10月にあつたようなあれをそのまま英語にして持っていくみたいなタイミング、タイムラインでは行かないのかもしれないんだけど、逆に言えば、それこそメーリングリストとか、いろんなチャネルも使いつつ、そのトピック、いつでも、後ろがまだ時間ありますから、オープンにしておけばという話が半分と、あとはまさに事務局との関係

で、それこそどこまでハイジャックできるのかと、ぶっちゃけて申し上げればというようなところをセットで議論していければ、先ほどのホームページで見せていただいた内容からすると、そんなに変な、どっちかというジェネリックなテーマが多かったと認識するので。

【加藤】 そうですね。

【西潟】 逆に言うと、どれでも日本風なテイストは、日本の人間が出れば追加できるのかなというところだと思うので、国連のイベントなので英語というのがありますけど、そこは皆さん準備しましょうよということで、それ以外のところに関しては。しかも、このとおりでなくてもいいんでしょうから。

【加藤】 オーガナイザーはNRIということでやれば、日本からパネリストとして参加するチャンスは大いにあると思います。

【西潟】 それで、先ほど地図で示していただいたとおり、それこそIGFのイベントの基本形の、ジェンダーもしかり、ジオグラフィーもしかり、バックグラウンドもしかりというダイバーシティの観点からすれば、多分、先ほど加藤さんおっしゃった45人の中で選ぶだけでも、誰か興味あれば話しているよ、ぐらいな、言い方はちょっと上からかもしれませんが、分からないですけど、NRIのグループの中での言い方というのは適切なものがあるのかもしれないんだけど、こっちの気持ち、この活発化チームの気持ちとしては、NRIのセッション幾つか、活発化チームが中心になって、例えばですけどもオーガナイズできるということになれば、著名人を呼ぶなら著名人呼ぶで、何かしらフィットするものがあればいいと思いますし、先ほどのNRIのコミュニティーの中で適切な人だけで集まったって、十分いろんなテーマでパネルディスカッションなり、そこから深めていくという、アクティビティーとかエクササイズとか、そういう話は幾らでもできると思います。

ちょっと私、2022もまさしく、このNRIの文脈で全然、ノーケアだったので、すみません、雰囲気もし分かればということをお願いできればと思うんですけども、もし22とか、あるいは上村さんおっしゃったようなベルリンとかもそうですけど、いわゆる対面でやっているような世界で相応の盛り上がりがあるということであれば、それこそ全然、重量級とは申しあげましたけども、そんなにすごい、ある程度セッションのアウトラインみたいなやつをやって、それこそ今、いい翻訳マシンもあるでしょうけど、英語にするぐらいなことは、IGFの事務局との間である程度、ワークショップと同じ締切りでやらなきゃいけないのかとか、そういう確認はあるのかもしれないんだけど、やっていただいて全然いいんじゃないですかね。

例えばまさしく、チルドレン・オンライン・セーフティーみたいな話とか、それをそのままやるかどうかはさておきとしても、普通にフィットする話ですよ。日本にだって 이슈ありますよねとか、片やWSISからの20年で、where we areみたいな話というのは、皆さん、ここのチームの中での趣味に合うのか合わないのか、ちょっと私、まだ分かりかねているんだけどもみたいな、でも全然あっていい話ですよ。むしろイントロダクショナルな話ですよ、今度は2025という話も見えてきている中でどうしますかという話だと思いますけど、そういったところとかをこの場で議論しないで、ほかにどこでやるんですかみたいな、逆に言うと、ほかの人に取られるぐらいだったら、ここでやらないとまずいんじゃないですかぐらいな感じで私はお聞きしていました。

【加藤】 おっしゃるとおりだと思います。特に日本でやるんですからね、これ。

【西潟】 ええ。一番高い目標を持つとすると、これは実現云々とか、後からの評価とかそういう話は別にして、何で2022とか、あるいは2019の話のことをお聞きしたかという、仮にですけど、私も知らないのだから仮になんですけど、あんまり盛り上がっていないということであるならば、逆に日本で盛り上がればベストプラクティスになるし、IGFの2024から先の話は全く現時点で分かっていないという中でやるとするならば、ベストプラクティス、最後になっちゃうかもしれないんですけど、少なくとも国内にレガシーとしては残りますよねと。IGFというものがずっと続いてほしいと期待はしていますけれども、分からないという意味も含めて申し上げますけど、ここで1回レガシーをつくれれば、その後IGFはまた世界を転々と回っていくんでしょから、行けるときに行ける人が積極的にそういった、来年以降のこうしたところに行ければ貢献できる。最初はNRIのところから始まって、IGFの外に出ていってもいいと思うんですけど、人によっては、取っかかりとしてはとてもいいんじゃないですか。そういう意味で、ちょっとがつついていいんじゃないですかという感想をまずは述べさせていただきました。

【加藤】 ぜひその方向で。ここにありますように、インタラクティブディスカッションなんですよ、なかなかそういう意味で、誰かが10分間、パワーポイントを使ってプレゼンテーションをやるというよりは、ああだこうだと議論し合うみたいな、まさにIGFの原型みたいなフォーマットで、みんながいっぱいしゃべるようなところですから、どういうふうに持っていくか、誰にどうやって出ていただくかということも含めて決めていく必要があるなと思いますけどね。

一応そういう、京都でNRIのコラボレーティブセッションを毎日やるということが決まって、次回のNRIの会議で恐らくテーマの絞り出しというのを、全体のテーマが決まっていく中でやっぱりここでも議論していく、そういうタイミングになると思いますので、少なくとも活発化チームの中ではお許しいただければ、取りあえず3人、もっとボランティア、追加で一緒に入っていただければ、それも大歓迎だと思いますが、情報収集だけは継続したいと思います。同時に重戦車部隊をぜひ準備いただければと思います。

ということで、NRIの件はこれでよろしいでしょうか。引き続きNRIについてもボランティアを募集しておりますし、それから、今申し上げたとおり、このセッションについてこんなことをやったらいいんじゃないかというのは、これはもう多分、活発化チームの今のチームの方中心に考えていただくのがいいのかなと思いますので、御意見あれば、次回まででももちろん結構ですし、お願いしたいと思います。次のNRIのコールが多分1か月ぐらいであると思いますので、そのときに、日本でこんなことをやりたいと言っていたなんていうのを言うとする、それは結構インパクトがあるかなと思います。よろしいでしょうか、何か追加の御質問、御意見ございますでしょうか。

それでは、NRIの件はこれぐらいで終わらせていただいて、すみません、時間を長く取ってしまいました。

次、10番目のアジェンダですけれども、前回の会議で、この活発化チームの会議は、こういう御報告とか、いろんな連絡事項とか事務的な内容とかで2時間やってきたんですけど、もう少し、テーマについて1時間ぐらい議論したらどうかという話がありまして、ただ、ここに議事録的に書いていただいたのは、そういうテーマを議論する回と、事務的なことの検討、管理・連絡的なこととは、やっぱり興味がある人が違うので、分けたほうがいいんじゃないかという御意見が結構強かったように思うんですけど、いかがですか。もしそうだとすると、同じときにじゃなくて、全く別の日とか別

の形でやるか、もしくはもう、ここにありますがおり、最初の1時間だけは管理・運営やるけど、残り
はということで、その残りだけでもっと広い方々が参加していただくみたいな、そういう形で明確にア
ジェンダをつくれればいいのか、この辺が議論の中心かなと思うんですけども、何かその後、こうし
たほうがいいのかというお考えをお持ちの方いらっしゃいますでしょうか。どこかでこれ、できることな
ら立ち上げていければいいのかなというふうに思うんですけども、御意見いただければと思います。

ないですか。ないと、また次回の持ち越し事項になっちゃうので、できれば、これと同じ意見.....。

【西潟】 いいですか、どなたもいらっしゃらないみたいなんですけど。

【加藤】 西潟さん、よろしくお願いします。

【西潟】 前回失礼してしまった分、今日の、まさにNRIのセッションコーディネーター役を持てるか
もしれないという話と併せて考えると、ワークロードに照らせばこの活発化チームの仕事も棚卸しし
ないといけなくて、例えば今日も前半のほうでお話しいただいていた広報の話とか、あれを真面目に
やろうとすると結構な労力かかるじゃないですかと。活発化チームとしてやるとなると、当然チーム
としての合議も必要だし、熟議も必要だしということで、当然時間もかかりますが、他方でどこまで
このチームとしてそういうことをやられますかとか、あるいは広報といってもいろいろあるので、ど
ういう広報をイメージされていますかみたいな点は精査が必要です。

むしろ、そもそものIGFの活動自体、特にIGFという形になると、それこそ総務省とかそういうのも
含めて、組織の看板以上の、組織の看板に囚われないと言ったほうがいいのかももしれないけれど、
という人たちも多分たくさんいらっしゃるはずで、そういった意味ではむしろ、サブを中心にしつつ
も、前回の議事録を拝見した限りで、おっしゃっていただいていることも多分オペレーションとして
は正しいと思うので、並行にするのがいいのか、どっちなんだろうかねと思いながら、今この議事
録眺めているんです。

【加藤】 すみません、サブを中心にとというのは、サブスタンスの議論を中心にとということですね。

【西潟】 まさにNRIのセッションを日本として率先してやるという、それも決を採ってからという
ことも当然あるんですけど、私、勝手に少し先走って話していますけど、仮にそういうことで、さっ
き私は重量級という言葉を使いましたが、そこを目指すのであれば、むしろそこに重心を置いて、
当然セッションやるのであるから、人を呼びますよね。人を呼ぶということは、勝手にそれは広報に
なりますよね。他方で、例えばのべつ幕なしというか、あまねく、大げさに言えば国民全体に対して
の周知広報は、この活発化チームの仕事ではないんだけど、少なくとも日本の中で歴史的にも、
今の深さという意味でも、IGFについて一番考えているチームとして、セッションをちゃんと1日1回、
1週間やるというところ、例えば広報の入り口なんかもそこから入るべきではないか、そういうふうに、
ちょっと形を変える機会になれば、比較的、少なくとも10月まで、10月最後の最後はどたばたとい
うか、あとは当日を迎えるだけという感じになっちゃうかもしれないんだけど、少なくとも半年はある
ので、ちょうどいいタイミングと言えればタイミングなのかなと思ってお聞きしています。こればかり
は私も一参加者でしかないの、皆さんとしてどうなさるのかしらというのはあるんですけど、ただ、
別に無理くり誘い水を出しているわけじゃないんですけど、一応ホストする日本政府としては、こ
ういうので、それこそ日本人中心に、変な意味じゃなくて世界に向けて、世界のことを考えてやって
いるんですよというものを発信できる機会はなかなかないので、せっかくだったら面白くやりませ
んかという気はしているんですね。

それこそ政府としてのIGF対応については、それこそ私よりは、今日ちょっといらっしやるのか分からないけど、飯田とかが中心にやっていますけど、例えばリーダーズセッションとか、あるいはDay 0なのか分からないですけど、ハイレベルで、それこそマクロン、メルケルみたいな人が出るようなところに、じゃあ我が国の岸田総理が出てくださるのかしらみたいな話というのもあるはあるんだけど、それって、それこそ加藤さんとか上村さんを前にして私なんかと言うのは僭越なんだけども、IGFのスピリットからするとちょっと違いますよねという気がしています。イベントとしてはもちろん大事なんですよ。UNの事務総長が来るというのであれば、それはお迎えするのは国家の首脳じゃなければいかなという話はもちろんだけども、そのようなことも考えると、ここに軸足を置いて、残り半年、取りあえず走り切ってみませんか。当然入り口としては、今日前段のほうで議論いただいたような、まさにコーディネーショングループの取扱いから始まるんだけど、それを何でやらなきゃいけないかといったら、逆に言うところをやるからという整理だと思うんですよ。

これやるときは、まさに重量級でやるんだったら、コーディネーショングループの整理ができていなかったら、もたないと思うんですよ。だけど、あんまり積極的な動機付けがあるタイプの仕事じゃないかもしれないんだけど、これがあるとなれば、やっぱりやらなきゃいけないでしょ？とか、あるいは従前、それこそ総務省で言えば高村という名前も拝見していますけども、高村が充て職で入っていたのか、個人的な動機で入っていたのかというのは、私は直接聞いていないから分からないんだけど、充て職だとすれば、じゃあ私が入るのか、今日も来ていますけど、田畑という企画官もおりますので、そういう形で入るのがいいのかとか、そういった議論も我々のほうもしやすくなる。

他方、幾ら京都会合があるとはいえ、組織の整理のための整理というのなかなかアドレナリンが出ない部分もあると思います。今回お三方が手を挙げてくださったことは非常に心強く思って拝見しています。ただし、コーディネーショングループにはこのお三方以外の方もいるのでやってみないと分からないですけど、一般論で申し上げると、例えばあの人からうだうだ言われましたとかいうことがないとも限らないわけです。属人的にメンバーの全員を存じ上げているわけではないので分からないですけど、そういう話をすれば、そういうことなら引き続きやるよとおっしゃる方がいるのかいないのかみたいな話とかもあるでしょう。そういった意味で、今日いただいた話というのは非常にセレンディピティーなタイミングでエポックメイキングな話であり、活発化チームとして転換点というかレバレッジポイントにもなるし、ここをベースにもし議論が深まるのであれば非常によい話だなと、コメント、提案という形で申し上げた次第です。

【加藤】 ありがとうございます。ほかの方がいかがでしょうか。

前回と今日、あまりたくさんの方から伺ったわけではないですが、今日のお話として、活発化チームで何らかのサブスタンスの議論を、どれぐらいの数をやるかとかその辺は別にして、継続するというのは何となくコンセンサスかなという気がしています。できれば、ロジスティックの問題で、こういう管理・連絡的なことを今後やっていく場合に、前回、今後月1回程度にしましょうというお話もしましたけれども、その月1回程度、同時にサブスタンスの会合をやるのか、それは2か月に1回とか、もう少し頻度は減らしてもいいんじゃないかという御意見もあるかと思えますし、それから、同じ日でなくてもいいんじゃないかという議論もあるかもしれませんので、その辺何かコメントいただければと思うんですが、いかがでしょうか。

今ちょうど出していただいているところから言うと、活発化チームの目的とずれているのではない

かという、一部、前回御意見ありましたけれども、体制は、活発チームはやっぱりサブスタンスもやっていくということかなというふうに思いますね、ここは。それが、今の西潟さんのコメントにありましたとおり、こういうことをやることによって広報ということにもつながっていくんじゃないかというのは非常に重要なポイントだと思います。

本田さん、お願いします。

【本田】 今出ている画面の3つ目の丸の1つ目のポチを見ると、この半年間で立ち上げをしなければならぬことを考えると、議論が1時間では足りないのではと書いてあるんですけど、もちろんこの場は、いわゆる管理・運営という議論の場でもあるんですけども、その前提として、公開されている場であると。ですから、後から、途中で誰かが入ってきて、じゃあちょっと僕もやってみたいよといったときに入ってこれるように、議事録も整備してあるわけだし、過去の取りまとめとかも探せば見られるようになっていくわけだと思うんですね。この議論の場も、いわゆる玄人というか、皆さん御経験がある方多いですけども、玄人でないと入れないというものでもないし、途中から来た方が、今、西潟さんの御意見いただきましたけども、いろんな意見を生かしていく中でまた広がってくるものだと思うので、管理・運営にしか、このことにしか興味がない人もいますという話があったんですけど、それは一体となるというか、実際問題、直近の2023もそうですし、その後も含めた形で、今、日本で何をやらなければいけないのかということを経験的に考えていく場にもなるわけなので、正直言うと今のままでは、今ここに参加されている十四、五名の方のみがずっと出てこられるのみで、新しいメンバーの追加も多分ないだろうし、その中の、さらに横への広がりというものもあんまり見込めないのかなと思っているのは正直なところですよ。

ですから、広報で.....。

【加藤】 すみません、本田さん、このコメントは、管理・運営が1時間に圧縮されちゃうと時間が足りないので時間配分を考えたらいいというだけで、サブスタンスの議論をやめろと言っていることではなくて、多分本田さんも同じ御意見かなというふうに思います。サブスタンスの.....。

【本田】 いや、やめろとか、やめないとか、そういう話じゃなくて。

【加藤】 いや、ここに書いてあるのはそういうことですから、そういう意味で。

【本田】 はい、分かります。それは分かりました。別に否定論で入っているわけではないんですけど、それを要は分割しようというのも確かにあるにはあるんですけど、それは結局、別に途中で入っていただくのも抜けていただくのも自由なので、それは構わないと思うんですけど、そういうことじゃなくて、この運営の場自体も公表されている、そして広報の場でもあるし、プラス、そこに新たなテーマ、議論、テーマセッションというものも入れた中で、我々の理解もまた新たになっていくだろうし、そこから出てきた、じゃあこれも追加しましょうとかという、両方の意味はたすきがけになると思うので、別にそれを分ける必要はあんまりないと思うし、時間の配分で、1時間、1時間でイコールとは思っていないので、今日は30分ぐらいですねということもあるだろうし、その配分はあり得ると思うんですけど、繰り返しになりますが、現状だけだと人的な発展性もないし、我々の議論も一般的な、過去のもの積み上げのところで広がってくるだけなので、より横の広がりというもの、新たなトピックも加えた広がりというのは望めないのかなと、そこを打開するためのものとしては、もっと必要ではないかということですよ。

【加藤】 ありがとうございます。さっき申し上げたように流れとして、このグループの今のコンセンサスの方向は、何かサブスタンスの会合をやろうと。それをどういう時間配分で、どういうふうなタイミングでやるかということとを今後検討していこうということで、ここに書いていただいたとおり、コンセンサスが取れた方向だということで、その辺のサブスタンスの会合を開いていくに当たって、いつもそれで苦労されている山崎さんとか、前回上村先生がプログラム委員会の取りまとめやっただいて、大変御苦労されたというふうに理解していますけど、その辺の経験からしていかがですか。もしそういう、会を1時間なり1時間半なりか、毎回1つのテーマを取り上げてやっていく場合に、どれぐらいの時間を取って、どれぐらいの準備期間を合わせて、それは具体的に言うと、1か月に1回できるのか、2か月か3か月に1回なのか、その辺含めて感触はいかがでしょう。今のお二人に限らず、皆さん、その辺何か御意見ございますか。

【西潟】 よろしいですか。すみません、西潟ですけども。

【加藤】 はい。

【西潟】 私がちょっとイメージを取り違えていたら恐縮です。その際は取り下げますけど、多分ここでやるべきことは、例えば私がしゃべる人だとしたら、OECDでやっていた人工知能の話、15分、20分おしゃべりできます、皆さんにとっては、これで結果的に知見を高める機会になります、そういうことをやろうとしておられるわけじゃないですよ？そういう意味では多分、今日のこのタイミングで、まさに本当にNRIとの関係で、今日御出席いただけていない方もいらっしゃると思うので、ある程度のプロセスを持って、ラフコンセンサスとして前へ進めていかなきゃいけないんだけど、スケジュールとの関係を先に確認したくて、これはMAGの河内先生がいいのかどうなのか、ちょっと分からないんですけど、NRIのセッションについても同じように、例えば提案とか、あるいはある程度アジェンダみたいなものを事務局に提出していかなきゃいけないのかというのがまず1個あって、これ、ワークショップであれば5月31日が締切りだったと認識していますけど、そのようなタイミングでやるとすると、例えば、じゃあNRIのセッション、1週間の中で何をテーマとしてやっていきますかという議論が多分先に必要で、その中でテーマが決まっていきますね。その中で、それこそ今の句で言えばプリンターネットみたいな話がテーマに上がってくるのであれば、それについてこのチームでも知見を高める必要があるというのが正しい順番だと思うんですよ。

そういった意味で、当然その段階になっては、そういった話もしなければいけないでしょうけれども、その前に、例えばNRI、全世界のNRIとの間で、次の会合で、先ほど加藤さんおっしゃられたとおりで、何か提案できるような話があるのか、あるいはマーケティングとか情報収集、こんなような感じで、次々回かその次ぐらいになると、日本からこういうふうに、曜日がどれかというのはまだ分からないけれども、例えばこれとこれとこれとこれやりましょうよみたいな話、それこそ地域間の協力の話というのが1個あってもいいと思うし、それこそインターネットの中の話ですよ、いわゆる分断とか、いろんな言い方しますが、そういう話をNRIとしてもちょっと真面目に考えてみてもいいんじゃないとか、あるいはテクニカルな話に入るとすればセキュリティーみたいな話が出てくるのか、それこそ本当にインターネットの資源管理みたいな話が出てくるのか。逆に言うと、それこそWCIT (World Conference on International Telecommunications)みたいに本当の意味での決を採るという話じゃないので、むしろ言いつ放しに近い形で、いろんな方の御高説を賜る部分も含めて話を聞くというような、仮にそういうふうになれば、この活発化チームが企画屋になるんだと理解しているんです。そうなった中で、まさにサブスタンスについて、知見の話というのはその次ののかなと思

うんですね。

なので、そういった意味ではまず、今日私も突然というか、突然というのは決して責めているつもりはなくて、今日たまたまとてもいいお話をお聞きできたということなので、そこから頭が勝手に回っているだけなので、また落ち着いて考えてみたらちょっと違うかなというのはあり得る、私本人もあるんですけど、他方で、今日のまさにNRIの話をお聞きする限りは、そういう順番で、その中でまさに、内容1時間、ロジ1時間というのは、一つの枠としてはあるんだけど、当然フレキシブルな形で運営されるべきなのかなということで、to doというよりは順番ですよ。次何やって、こうなって、こうなってみたいなのがこのチームで共有できると、非常に皆さんのイメージが、仮にこのイメージでいいとすればなんだけれども、共有できるのではないかと思ってお聞きしていたんですけどいかがでしょうか。

というのは、何が言いたいかといえば、もう究極の話、今日NRIの話が出てきたので、まさにサブをやるという話も含めてですけど、前回の議論のそのままの上書きじゃないと思っています。

【加藤】 ありがとうございます。ほかの方いかがでしょうか。特にないですか、御質問とか御意見は。

ありがとうございます。西潟さん御指摘のプロセス、私もまさにそんなようなことを考えて、今日これをどの時間枠でどうするとか、そういうことを決めるよりも、まずNRIに関しては、今後NRIのグループで、1か月以内にまた次の議論があって、ああいう枠でNRI、京都の枠を取るの、その中身についてどうしようというプロセスがあると思います。まだあまり中身についてのメーリングリストのやり取りは始まっていないですけども、そういう中に書き込んだ中から、何となくそれが決まっていくなかなと。

これはIGFの全体テーマを、MAGが3月8日から10日、ウィーンで行われる以降決まっていくのに合わせて、NRIのほうも決めていくのかなと思います。そういう意味で、そのセッションの内容の動きを見ながら、活発化チームがどう対応するかというのをフィードバックできるようにすればいいのかなというのが1つと、それから、いよいよ4月から5月20日まで、全部のIGFのセッションのテーマ募集というのが始まると思いますけれども、それにも併せて、活発化チームはNRIの問題だけに特化するというふうには言い切る必要はなくて、いろいろなセッションに参加するお手伝いもできればいいということ、その動きを見ながら、じゃあどれぐらいの頻度でどのテーマについてというか、どのぐらいの頻度というか、次いつまでに、このテーマで活発化チームがオーガナイズして議論してみようというのを、次回以降、提案なり決めていくというふうにできればと思いますが、いかがでしょうか。

ですから、今日、サブスタンスの議論はこういう時間割で、こういう回数やりますという枠を先に決めるのではなくて、テーマの動きを見ながら、それじゃあそのテーマについて来月なり再来月議論しましょうということをするのが、今申し上げたことのまとめです。

上村さん、何か。手を挙げていただいて。

【上村】 すみません、ようやくビデオが映った。失礼しました。

先ほど西潟課長がおっしゃったことと、かなり呼応するところもあります。NRIのグループのディスカッションでは結構、アイデアを出せとか、そういうことを求められるわけですけど、多分コンタクトとして手を挙げた方3人でアイデアを出すとか、ペーパーを用意するとかということにはならない。

してくださってもいいと思うんですけど、ならないんじゃないかと思うんですね。そうすると、やっぱりグループとして相談する時間も必要になってくるでしょうし、しかも重量級のセッションを提案してみようとかすると、やっぱりいろんなNRIの人たちを巻き込んだりするための戦略も必要になるので、そういうことを相談する時間もきっと必要になると思います。なので、思った以上にNRIのコミュニティーと付き合うことにはリソースを割かれるので、そのリソースのゆとりを持っておいたほうがいだろうというふうに思います。

それから、先ほど振られてお答えしませんでしたけど、セッションを用意するのはやっぱり—セッションというのは、活発化チームの時間の一部をという形でのセッションを用意するのは結構大変ですけど、今まで誰もそれを否定したことはなかったと思うんですよ。ただ、前回の話でも出たように、例えばJPNICというか、事務局の山崎さんに振れますかと言ったら、それは困ると、はっきり前村さんもおっしゃっていたし、私も、何というんですか、正直言って、この活動は好きこのんでやっているんで、自分の食指が向かないところにはあまりリソースは割きたくないという気持ちがあります。

なので、平たく言うと、そういう準備をしてくださる人がいないと先に進まないんじゃないかという話だったと思うんですね。なので、その点について、よっぽど名演説があると心変わりをする人もいるかもしれませんが、でもそういうことでもないとする、やっぱり、否定はされないけども、実施体制についてあんまり新しい案もない状態なので、やらないというのではなくて、準備ができたらするということでもいいのではないかと思う次第です。NRIのコミュニティーと付き合うにはリソースが要る、必要だというのは十分皆さんも御理解いただくとよいことだろうと思います。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。繰り返しになりますけど、上村先生もそういう意味で、NRIのリソースが割けるかどうかはあれですけども、動きを見ながら、日本からもインプットをしながら、この活発化グループでもう少しサブスタンスの議論する場の立てつけをその時点で考えると、そういうプロセスでよろしいですね。

【上村】 西潟さんがおっしゃったように、順番があるだろうということだと。

【加藤】 そうですね。

【上村】 はい、そういうことです。

【加藤】 ありがとうございます。いかがでしょうか、ほかの方々。いっぱい課題はあって、本当にいつもそうなんですが、事務局体制なりサポート体制ができるかというところに行き着くことが多いんですけども、やりたいことというのは何となく今、コンセンサスが出来つつあるのかなと思いますが、いかがでしょうか。

じゃあ一応そういう前提で、私もあれですし、繰り返しになりますけども、3人以外にもぜひNRIのコーディネーターとしてボランティア、名のりを上げていただければお願いしたいと思いますが、今後NRIコミュニティーと付き合うリソースを充実するためにも参加をいただいて、その内容をできるだけこのグループにフィードバックするというふうにしていきたいと思っています。そういうことで、今後の活発化チームの会合の方向性についてはこれぐらいで終わりにしたいと思っています。

次のアジェンダアイテムは、活発化チームの主催という言葉として、共催とか協賛とか後援とか、そういう形のほうがいいのではないかという点ですけども、これはいかがですか。JAIPA木村さん、

まだいらっしゃいますか。木村さんとかJPNICの山崎さん、この辺ぜひこう変えたいとか、何か御提案ございますか。

【山崎】 特に強い思いはないです。むしろチームの皆さんがどうされたいかというところじゃないかと思います。

ちなみに、木村孝さんは、もう抜けられてしまいました。

【加藤】 そうですね、お名前がないかなと思ったので。これも何かいいかげんなあれですけども、JPNICさん、JAIPAさんが、継続して今の形を継続されることについてコンサーンがあれば御提案いただくということ、並びに活発化チームとして、次、イベントがあるときに、またもしこの問題が引っかかるようであれば、そのとき議論するというところでよろしいでしょうか。今日何かの形で決めなきゃいけないということではないような気がするんですけども。

【西潟】 1点、いいですか。決めなくていいことには同意しているんですけど、その意味で次の議論として一つ考えるときの足しになってくれればと思って申し上げます。この活発化チームというところに至った経緯というのがあるのは承知しているんですが、ちょっと一般化して、2023年に日本でIGFのイベントが開かれるので、日本でIGFのこと、あるいはインターネットガバナンスのことを考えている人が集まっている会合がこの会合だとすれば、本来は、私の意見というか、考えだと、ここの主催はコーディネーショングループが一番美しいですよ。ただ、そこに至っていない経緯がある中で、活発化チームというチームがあり、その主催として、これまでは主催者という形でJPNICさんとJAIPAさんがいらっしゃったというふうに私は理解していて、であれば、先ほど申し上げたようなコーディネーショングループのリオーガニゼーションなのか、リバイタリゼーションなのか、両方だと思いますけど、あるいはリエンジニアリングの要素もあるかもしれませんけど、そういった中を通じて引き続き、そこが主体、いわゆる晴れて日本のコーディネーショングループとしてこの会的主催となっていて、そこに、これは私の属する組織じゃないので軽々なことは言えないんですけど、例えばJAIPAさんやJPNICさんが協賛や後援いただくという形が本来の姿ではないかと私は見えています。もし違うのであればおっしゃってください。逆に合っているのであれば、そこを一つゴールポイントとして共有した上で、今の段階で別に、何かこれが犯罪行為に当たるとかそういう話では決していないので、むしろそれこそイベントも、カレンダーは一日一日近づいてくるわけで、必要以上に組織論のところで時間と労力を費やす不毛な部分は非効率だと思いますけども、その共有のイメージがないといけないというのが私の問題意識としてあって、それについて、もしどなたか、私の理解が正しくない場合は尚更なんですけど、お知らせいただくと大変ありがたく存じます。

【加藤】 ありがとうございます。過去かなりいろんな歴史があって現在に至っているということで。

上村さん、お願いします。

【上村】 理想的にはコーディネーショングループがこの場を主催するのが筋じゃないかというのは、まさに西潟課長がおっしゃったとおりです。私がどう整理していいか分からないと先ほど申し上げたのは、なぜそういうことになっていないのか私分からない、知らないからでして、きっと何かいろいろ事情があって、こういう形で活発化チームというものがスタートしているんだと思うんですが、CGと横に並べるような形で新しいグループができていっているのを見ていてのが不可解だなと、ずっと昔から思っていました。

それで、組織論にあまり時間を使うべきでないというのは確かにそのとおりなのですが、やっぱり私が気になっているのは、IGFタスクフォースにJAIPAとJPNICとほかの団体が入っていると、活発化チームも入っていると。ただし、活発化チームはJAIPAとJPNICが開催しているグループであるという、その入れ子構造がどうも腑に落ちないので、その点はあまり違和感ないのでしょうか。ないということだったら気にしなくてもいいのかもしれないと思いますが、どうなのでしょう。これは西潟課長に伺ったほうがいいのかもかもしれません。

【西潟】 西潟です。今の上村さんの御指摘に直にお答えすると、それは私も、拝見していて違和感がなしとします。他方、タスクフォースに関しては少なくとも一応しっかりした会議法があると理解している。こちらのほうも先ほど上村先生がおっしゃっていただいた通り、コーディネーショングループにチャーターがあるし、ここもチャーターがあるという意味においては、結果論としてこの2つの団体といたしますか組織の方が中心的に関わってこられたということであるならば、どちらも組織名の中にインターネットが入っている以上、その点には全然違和感はないんだけど、上村先生がいみじくも御指摘いただいた通り、入れ子みたいな構造を真面目に考えると、そこは違和感なしとします。逆に、その違和感がいわゆる問題として顕在化もしていないというのが、ここまでの私の理解ではあります。

【上村】 もしそれで今後進めていけるんだったら、それでいいんじゃないですかね、組織論にあまり時間を使うのも得策ではないということだと思うので。ただ、そこに参加する人がどう思うかというのは、また別の問題としてあると思いますが、活発化チームとしてはいいということなのかもしれないと思いました。

【西潟】 そこは逆に、先ほど私が、前のほうで申し上げたとおりで、まさにNRIとしてセッションをしっかりと、誰かが持つということになったときには、それはコーディネーショングループであるべきなので、そこへの整理の過程の中で、今、上村さんがおっしゃっていただいたような入れ子の話もそうだし、あるいは、こういう言い方が適切かどうかはさておき、JPNICとJAIPAがちょっと目立ち過ぎているということであれば、その部分は自然と、まさにコーディネーショングループが再立ち上げになった段階で、半分は解消できるという話なのかなとも理解しました。逆にタスクフォースのほうは発起人という形で、JAIPA、JPNICに限らず幾つかの組織が中心となって、会長の村井先生を中心にやっていくということになっているので、それはそれで進めていただくことだと思っています。

【上村】 分かりました。

【西潟】 というふうに私は理解していますけども、これはもっとチームで議論していただいて全然いい話だと私は理解しています。

【上村】 あともう一つ、イベントがJPNICとJAIPAの共催になっていることには、多分私の責任がかなりあるんですけど、その点についてはいずれペーパーにでもまとめて御説明させていただきたいと思います。平たく言うと、有志グループにお金もリソースもないので、2つの団体の名前と財布をお借りしたというような経緯です。

【西潟】 ありがとうございます。端的に、まさにイベントのあれで言うと、率直に申し上げて、2団体共催だと総務省が後援しづらいケースがあるんですよねというような話もあります。それはまたおいおい議論させていただければと思いますけど、これはUNのイベントですから少なくともIGFの中でセッション取る分には総務省の後援は関係ない。むしろ、データ通信課からも何人か今日の議論に参

加らせていただいていますけど、こういった形で引き続き関わらせていただければ大変ありがたく思っていますけど、後々のことを考えると、コーディネーショングループを例えば総務省が—例えばの話ですよ。コーディネーショングループはIGFに属するところなので、例えば総務省の後援だったり、法人としての内閣府の認可というプロセスが発生するのもややこしいところなのかもしれないんだけど、少なくとも、例えば去年の10月のイベントみたいな形のときのアプローチというのが大分変わるだろうし、世の中への説明の仕方もスムーズになると思いますし、その暁には京都会合が一つの契機になってリエンジニアリングできましたということでも美しい話だと個人的には思っています。皆さん直接に関わられている方、そうじゃないという方もいらっしゃるかもしれませんが、データ通信課として拝見する限りは、そういうふうに整理するのも一つの契機になるのかなと思って、私も拝見しているところであります。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。じゃあ、この項目については両団体のままでよいかというと、当面現状を継続するという、取りあえずあれで、いずれ必要になれば再度この議論をするということかなというふうに今日のところは思います。

ということで、今日のアジェンダは全部カバーしたつもりですが、最後に次回どうするかですけれども、前回、できれば今後1か月に1回程度と申し上げたんですが、1か月に1回程度でよろしいですか。実は1か月に1回ということだと、次回が3月27日月曜日になりますけれども、ちょうど3月28日がIGFのタスクフォースで、その前日ということになります。タイミングとしてそれぐらいでいいのかなと思いますけど、いかがでしょうか。27日は非常に都合が悪いとか、そういう方いらっしゃるかも。

【西潟】 西潟ですけど、すみません。27の都合云々というよりも、ちょっと今日、前村さんいらっしゃるから分からないところあるんだけど、タスクフォースの前がいいのか後がいいのかみたいなところ、私、正直判断が分からないところでして.....

【加藤】 あとIETFの横浜が27日から始まりますね、そういう意味では。

【西潟】 なので、いろんな意味で。年度末だからという一般論もあるんだけど。

【加藤】 だったら今までどおり、今回は3月20日の月曜日にタスクフォースやるということでも、私はどちらでもいいのかなと思いますが、皆さんの御都合で。

【西潟】 あとはあれですよ、MAGもしかりですし、NRIの中でのディスカッションみたいなもののフィードバックもしかりなので、私は別に3週間と4週間の違いについてあまり意識を持っていないので、皆さんのあれで決めていただいたらいいんだけど、特に4週間になった場合は、逆にアドホックは妨げないという形にしておかないと、多分、4週間空くと。

【加藤】 間が空いちゃいますよね。

【西潟】 うん、船を逃す場合とか出てくると思うので、本当にNRIの話を詰めていくとなれば、このチームとして。

【加藤】 NRIの次の会合はまだ決まっていらないんですが、1か月後だと、ちょうどその頃になるぐらいかもしれないですね。NRIの会合は、日本時間に合わせてもらって夜7時開始となっているんですけど、ちょうどその辺に重なってくるかもしれないので、ちょっと今何とも言い難いんですけどね。取

りあえず3月20日の月曜日にしますか、早いほうがリスクは少ないから。

【西潟】そこは逆に.....。

【加藤】ただ今日決めると、それをまた変えましたというわけにもいかないのでは、あれですけど。

【西潟】皆さんとの間の議論していただいたらいいと思うんですけど。

【加藤】山崎さん、横浜との関係で、27日って忙しいですかね、皆さん。

【山崎】我々は特に、どちらでも構わないですけど。

【加藤】構わないですか。

【山崎】先ほど参加者の方でIETFで何かされないんですかという質問をなされた方がいたので.....。

【加藤】ありましたね。

【山崎】技術コミュニティだと重ならないほうがいいという方はいらっしゃると。

【加藤】かもしれないですね。

【山崎】それはどれぐらいステークホルダー間のバランスを取るかということにもよりますけれども。

【加藤】IGFのタスクフォース28日に来ているので大丈夫かなと思いますけど。

【西潟】なので、例えばIGFのタスクフォースに打ち込むことがあるのであれば、20日にやったほうがいいと思うんですけど、そうじゃないのであれば。

【加藤】あまりないと思いますけどね、今回特に。

【西潟】そうそう、今日こういう議論をしましたというのを御紹介する以外は特にないかと、特に加藤チェアからのお立場からすると。なので、そうするとむしろ、起こること、起こり得ること全部受け止められるような形という意味では、4月上旬のほうがいいんじゃないですかというのが私の感覚なんですけど。

【加藤】多分それは間が空き過ぎてという感じもするので、今まで3週間ごとにやったので、NRIの動きや何かも含めると、3月20日か27日かどちらかのほうがいいと思うんですね。だから、もしIETF横浜とかぶる可能性があることが問題なければ、27日ぐらいがちょうどいいのかなというふうに思いますけどね。どうでしょうか、今日御出席の方で。これは事前にアジェンダも出していたし。

浜田さん、お願いします。

【浜田】ちょっと個人的な都合で申し訳ないんですが、ちょうど27日の週に出張が入りまして、27日だと出席できないかと思えます。

【加藤】分かりました。いかがですか、ほか。じゃあもう一回、今日の議論やNRIの動きもあるので、今回は今までどおり3週間後の20日にしますか。次回からは1か月の前提でということはいかがですか。もし御異議がなければ、次回は3月20日、IETF横浜があるというのは一つ大きな要素であるかもしれないので、3月20日の月曜日、これはちょうど連休というか、翌日が休みで、その合間にはなりませんけれども、今回は3月20日ということでやらせていただきたいと思えます。

じゃあ、ほか何かございますか。山崎さん、ユーストラックへの日本からの参加について、これは山崎さんからですね。

【山崎】 はい。加藤さんもそのメッセージを受け取られていると思いますけど.....。

【加藤】 そうですね。はい。

【山崎】 IGF事務局から、IGF2023ユーストラックというのがあって、そこから、日本から参加しないかということ。総務省の方とお話しなされた際にそういう話が出たので、総務省の方から加藤さん宛てに連絡があるだろうということで、今回、飯田さん及び飯田さんの部署からどなたも参加されていないので、その話は、いらっしゃったらお伺いしようと思ったんですけど。

【加藤】 そうということですね、ごめんなさい。

【山崎】 その後特に何も来ていないですね、加藤さん宛てに。

【加藤】 僕宛てには来てなくて、これは総務省の。

【山崎】 ちょっとそれ以上お伝えできることはないという。

【加藤】 そうということですね、ごめんなさい。総務省の佐々木様がIGFを訪問されて、IGFの事務局に、ユーストラックの話があって、日本からどうやって参加するんだという話があって、これ、どう対応したらいいのかということのやり取りがあって、その件なんですけど、もし総務省の御参加の方で何か御存じであれば、どなたかいらっしゃいますか。

【西潟】 すみません、データ通信課は、ちょっとここはフォローしていません。

【加藤】 分かりました。もし何か聞かれればぜひお願いしたいんですが、この活発化チームでユースを何とかしようということを行っているので、そういうことうまく活用していただければいいのかなと思います。私のほうにも何かコンタクトがあれば、また皆さんに御相談します。

【西潟】 今日、飯田なり、そっちのチームの人間が失礼してしまったので申し訳なかったんですけど、御指摘いただいた、もちろんアジェンダに入っていたということも含めて、御指摘いただいたこと、それから多分、先ほどおっしゃった佐々木というのは多国間経済室長の佐々木のことだと思うんですけど。

【加藤】 そうです。

【西潟】 そこでの話もここでの議題になったという2点、担当のほうには共有させていただきまして、それこそ加藤さん、山崎さんにちゃんとコンタクトすると。

【加藤】 コンタクト入れていただいて。そうですね、活発化チームにということ。

【西潟】 ええ、活発化チームは関心を持って見ているんだけど、アップデートよこせと、そういうことでございますよね。

【加藤】 分かりました。

【西潟】 ということであれば、その旨、中で共有させていただきますので、しばしお時間なりいただければと思います。すみません。

【加藤】 分かりました。IGFの事務局とちょっと堂々巡りになっているようなコンタクトがあったの

でということです。

【西潟】 そうということですね。組織内でその辺り。

【加藤】 ぜひよろしくをお願いします。

【西潟】 分かりました。

【加藤】 じゃあ、今日のアジェンダは以上ですが、皆さん何か追加の項目とかありますか。

もしなければ、長時間、今日もありがとうございました。ということで、3週間後の3月20日、次回よろしく願いいたします。これでお開きにさせていただきたいと思います。ありがとうございました。